

# 初任者研修を振り返って

養護教諭 佐藤美沙都

## 1. はじめに

4月1日の辞令交付式にて、教職の素晴らしさを感じるとともに自覚を持たなければならぬと強く思い、新たな気持ちで養護教諭の仕事に向かおうと決意した。養護教諭は児童・生徒の実態をふまえて、保健室経営を行うが、養護教諭によって力を入れる分野があり、保健室や学校保健の在り方が大きく変化する。この研修を通して、養護教諭の仕事の理解を深めることを目標に励んだ。

## 2. 校外研修

校外研修は開講式・閉講式を含め全9回行われた。研修を受け、今までの業務について振り返ることができた。講師の先生方や指導主事の吉尾先生、他の養護教諭から、多くの工夫を学ぶことができた。研修の中では食物アレルギー研修会や秋田大学附属病院の看護師さんから基礎知識や緊急時の判断の仕方などを学び、自分の判断に自信がつくようになった。医学や技術は日々進歩しているため、研修会への積極的な参加や、新しい知識を得る努力をしていきたい。

また、他の養護教諭と交流し、どのように保健指導を行っているのか知ることができた。中には保健だよりや廊下の掲示物に力を入れている先生方もいた。様々な保健教育の方法があり、参考にして、今後取り入れたいと思った。

研修の中で印象的だったのは、「性に関する指導」の指導者研修会へ参加させていただき、性教育やLGBTの理解を深めることができたことである。LGBTはAB型や左利きがいるような割合、13人に1人の割合であり、LGBTは多くの苦悩や葛藤を抱えている。教職員として彼らにどのように接していくべきかを考えることができた。生徒と接する時、また生徒の人柄を捉える時の新たな視点を得ることができた。

## 3. 校内研修

### 【指導者の研修】

前任者である大日向先生が講師となり、全12回講話をしていただいた。校外研修では養護教諭の業務における基本的なことを学び、大日向先生からは基本から本校の実態に合わせてどのように活動していくか、実践的なことを学んだ。

大日向先生が特に力を入れていたのが、教職員との情報交換・連携であった。それらを円滑に行うために、メモをとること、早めに情報交換することであった。生徒は毎日刺激を受けており、状態は日々変化する。その日の、その時の様子を鮮明に覚えているうちにメモを取り、今日の様子を担当等と共有する。それが悪化を防ぎ、早めの生徒指導等につながる。

保健室は心身を休める場所であり、授業とは異なる生徒の姿が見られる場所である。生徒理解を深めるため、情報共有は密に行っていきたい。

#### 【所属校教職員等の研修】

校長先生、事務長、教頭先生、各分掌主任の先生方に教育目標、進路指導、生徒指導、生徒の実態等について全20回ご指導していただいた。研修を通して、高等学校の学校組織や羽後高校の特色などが見えてきた。本校では部活動や学校行事が盛んであり、少人数ながら活気が感じられる。そしてそれは各分掌で様々なことに取り組み、支えているからである。私も学校保健や養護教諭の視点から支えていきたい。各分掌の取り組んでいることを理解し、学校全体の流れを意識しながら、できることを精一杯やっていきたい。

#### 4. さいごに

小学校で講師経験を積み、養護教諭の仕事に慣れ始めていたときに採用していただいた。配属が高等学校で小学校とのギャップに戸惑うこともあったが、先生方の協力・支えがあり1年間を終えることができた。また、研修を重ねるごとに養護教諭の仕事の奥深さを知ることができた。まだまだ未熟なところも多く、日々の自己研鑽が必要であると思知らされた。来年度は今年度の反省も活かし、多くのことにチャレンジをして、より充実した保健室経営を心がけたい。

最後に永井校長先生、佐藤教頭先生、鹿角事務長さん、大日向先生及び校内研修で指導していただいた先生方には心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。